

信長公の“おもてなし”を たどる旅

Que muitas vezes o fosse lá vizitar a Mino.

[Historia de Japam] Luis Fróis

～美濃へは何度でも訪れよ～



撮影：小林 淳

日本遺産第1号 「信長公のおもてなし」が息づく戦国城下町・岐阜

時は戦国。時代の風雲児・織田信長公は、岐阜城を拠点に天下統一を目指した。戦を進める一方で、ここ岐阜に「地上の楽園」と称される宮殿を建設。軍事施設である城に“魅せる”という独創性を加え、城下帯を最高のおもてなし空間にまとめあげる。その歓待は冷徹なイメージを覆す、実に雅で驚きに満ちたもの。当時の有力者はもちろん、宣教師ルイス・フロイスら世界の賓客をも魅了した。

信長公が形作った城・町・川文化は城としての役割を終えた後も受け継がれ、今も訪れる者を歓迎する。

信長公は来訪者に語りかける。「美濃へは何度でも訪れよ」、と。

岐阜は訪れるたび、想像の上をゆく“おもてなし”が待ち受けている。



JAPAN HERITAGE
日本遺産



夕暮れから夜になるという狭間の風景。日が暮れてからの岐阜城下山の体験を書き記している公卿・山科言継(やましなときつ)は「陰難の風景、言語に説くべからず(険しい風景は、言葉にすることができないの意)」と述べている。

雲間から西日が降り注ぐ様子は見事。こうした放射状の光の筋は「天使のはしご」と呼ばれる。西の空に日が沈む夕景から夜景まで、うつろいゆくトワイライトをじっくりと楽しみたい。



岐阜城パノラマ夜景

329mの天空から見下ろす、岐阜城の夜間延長開館時のみに出会える岐阜の夜景。天守閣からは広大な濃尾平野が360度のパノラマで望める。遠くの地平線、稜線の際まで広がる街灯りの瞬きは、大都会の摩天楼とはまた違うダイナミズム。歴史浪漫を感じる夜の城下を収めたい。

【令和7年の予定】

1月18日(土)～1月26日(日)の土日 20:00

※日程の変更、天候等による中止の場合あり

3月20日(祝)～3月30日(日)の土日祝日 20:30

※期間中は岐阜城のライトアップを減灯

4～5月、7～8月は期間中毎日

☎ 058-263-4853(岐阜城)

9～11月は期間中の土日祝日



「月と岐阜城」

はるか遠くにある月は、地球上どこから撮っても同じ大きさだが、城は離れるほど相対的に小さく見える。その原理を利用して、数キロ離れた場所から望遠レンズで狙った写真が、天守閣に巨大な月が重なる「月と岐阜城」。「天守が比較的小ぶりで峻険な山の上にある」、「城を遮る山や建物がない」という条件が揃う岐阜城だからこそ撮れる、唯一無二の写真。



信長公がいざなう夢幻の岐阜へ 月と岐阜城、 大地が瞬くパノラマ夜景

もてなし好き、もてなし上手で知られる織田信長公だが、夜のおもてなしはその真骨頂。なんといつてもかの人は、岐阜城の後の居城・安土城にて日本で初めてライトアップを敢行した、夜景を遊ぶ先駆者である。提灯と松明で煌煌と照らされた城は真昼のように輝き、琵琶湖に映るその姿は、この世のものとは思えないほど幻想的であったという。

—それから400年超の時を経て、今ここ岐阜城でも神秘的な夜の姿が人々の目を惹きつけている。クレーターまで見える巨大な月と、金華山のとっぺんに建つ岐阜城天守。この2つが重なる写真は、月が地球に大接近しているかのような異世界観。この「月と岐阜城」の火付け役でもある、フォトグラファーの小林淳さん曰く、「巨大な月と山上の城のコラボレーションは、平野にそびえる山城だからこそ撮れるもの。街のどこから見ても目視できる金華山、つまり信長公が意図した魅せる城であればこそ景色なんです」

富と権威を見せつける信長公自慢の天空の城は、月を背負ってその威容が一際増して見える。

ロープウェイで夜の城に登れば、眼下で出迎えるのはオーロラにも例えられる岐阜の夜景。先程は城を際立たせていた広大な濃尾平野が、今度は光の絨毯となって見る者を包み込む。眺めてよし、登ってよし。下界でも山上でも、夜の岐阜城は信長公のサプライズが殊更にまばゆい。



月齢や時間帯、気象条件や雲の有無によって、全く違った写真が撮れるのも、「月と岐阜城」の難しさであり面白さ。気候は「運」と捉え、その日に撮れる一期一会の姿を残したいもの。



日本各地の魅力的な文化・伝統を語る「ストーリー」を文化庁が認定するもの。岐阜市では【「信長公のおもてなし」が息づく戦国城下町・岐阜】が日本遺産第1号に認定されている。



天守から西の眺望。

金華山や長良川を見下ろす最高のおもてなし空間は、限られた者しか入れない特別な場所。そこで自ら膳を運んで飯をよそう——これが信長流心づくしのおもてなしであった。

かつて織田信長公は、「自ら」岐阜」と名付けたこの地で「天下布武」を掲げ、天下取りの夢に邁進した。冷酷非道な戦上手…そんなイメージで語られることの多い信長公だが、岐阜城やその城下で行ったのは、贅を尽くした手厚い歓待。軍事力による征服と、文化の力を駆使した有力者へのおもてなし。こうした二面性を持ち合わせた処世術も、カリスマ的な信長像の「一因」なのかもしれない。

岐阜城に入城した信長公は、まず城の大改造に着手する。山水画を実写にしたかの如き山麓の迎賓館は、宣教師ルイス・フロイスに「地上の楽園」と言わしめた美しさ。極めつけは山上の城郭。信長公は石垣を用いて強固な軍事施設に造り替えた上で、この場に人を招いて手ずからおもてなしたのである。

「岐阜城」でおもてなし

NOBUNAGA KINGDOM G I F U



京都の公家も息をのむ 絶景のサプライズ

山上の城郭 日本遺産 国指定史跡

岐阜城山上部の城郭は、軍事施設でありながら住居や迎賓機能を備えた、当時としては常識破りの造り。1569(永禄12)年、ホルトガルの宣教師ルイス・フロイスが柴田勝家の案内で山上を訪れた際は、豪華な座敷にてお茶と食事の歓待を受けた。その際も信長公自身が膳を運んで給仕を行っており、フロイスが膳を頭上に掲げて感謝の気持ちを示した際、「汁をこぼさぬよう、まっすぐ持つように」と声をかけられた、と記している。



美しい姿をとどめる天守前通路の石垣。令和5年度の発掘調査の結果、この通路におもてなしの場となる「空中庭園」が存在した可能性が出てきた。



メタバース岐阜城

信長公が金華山の麓に築いた「地上の楽園」を、450年の時を超えてメタバース(仮想空間)に復活。発掘調査や文献の記録に基づき、最新のデジタル技術を用いてリアルに再現した戦国岐阜城を、オンラインゲーム「フォートナイト」と「岐阜城今昔VR」で体感できる。



自然美と建築美のコラボレーション 風雅を極めたおもてなし空間

織田信長公居館跡 日本遺産 国指定史跡

岐阜城への訪問者が最初に立ち寄る迎賓館のあった場所。建物や庭の見学に踊りと歌、おやつや食事、贈り物等の接待が行われた。1572(元亀3)年、日本布教長フランシスコ・カブラル来訪時の晩餐会では、信長公は食事までの待ち時間に自ら果物を運び、庭にいる鳥を殺させて料理に出すよう命じている。近年の発掘調査で複数の庭園や金箔飾り瓦が見つかっており、煌びやかな居館の姿がイメージできるようになってきた。



巨石を使用した通路や滝を流した岩盤など、遺構からも在りし日の姿が目に見えよう。

☞ 岐阜市千畳敷(岐阜公園内)

II 戦国城下町の足跡 II



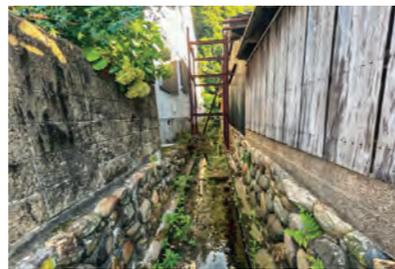
平田橋跡

城下町南側の惣構堀跡を示す碑。昭和43年まで平田橋という橋が架かっていたが現在は暗渠(あんぎよ)になっている。



惣構の土塁

「惣構」と呼ばれ、かつては土塁と堀で囲まれていた城下町。堤防がその名残を今に伝えている。



梶川堀

この堀を境にして、東側(山側)には武家屋敷、西側に町屋が広がっていたといわれる。

岐阜市シェアサイクル「Gifu-ride」



Gifu-rideとは、どのサイクルポートでも貸出・返却可能なシェアサイクルです。スマホに専用アプリをインストールして、会員登録後、自転車のQRコードを読み取れば利用開始となります！



自動運転バス GIFU HEART BUS



岐阜市では2028年3月まで、「自動運転バス」を継続運行中。原則予約制&無料で、岐阜駅～柳ヶ瀬～ぎふメディアコスモスを通る「中心部ルート」に加え土日祝日は川原町、岐阜公園まで周遊する「岐阜公園ルート」も運行しています。



岐阜市歴史博物館

原始時代から近代まで岐阜の歴史を紹介する博物館。信長公の生涯や当時の岐阜城下をリアルに堪能できる「天下烏織絵巻」や「楽市立体絵巻」は必見。

☞ 岐阜市大宮町2-18-1(岐阜公園内)
 ☞ 9:00~17:00 ※入館は16:30まで
 ☞ 月曜(祝日の場合はその翌日)、祝日の翌日、年末年始
 ☞ 058-265-0010



ぎふ金華山ロープウェー

岐阜公園の山麓駅と、金華山の山頂駅を約4分で結ぶ。四季折々の自然や眼下に広がる岐阜の城下町等、絶景を見渡しながらの空中散歩を楽しめる。

☞ 岐阜市千畳敷257
 ☞ 9:00~18:00 ※季節により異なる。
 ナイター営業期間有 ※HPよりご確認ください
 ☞ 058-262-6784



長良川温泉

清流と豊かな緑——四季移ろう美しい自然を眺めながら多彩な温泉を満喫できる川辺の温泉街。ゆったりと癒しの時間を過ごせる逗留はもちろん、気軽に湯浴みを楽しめる日帰り温泉も人気が高い。13年連続「にっぽんの温泉100選」にランクイン！



露天風呂から夜景も朝焼けも
ホテルパーク 天下人気分で味わう絶景

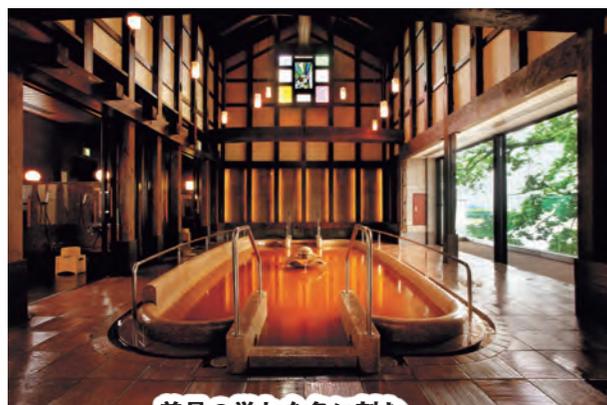
創業120年超、金華山と岐阜城に最も近い温泉旅館。宿泊はもちろん日帰り湯や食事のみの利用にも対応しており、願い通りの“旅”の形を叶えてくれる。金華山を望む「山の湯」と眼下に長良川を見る「川の湯」2つの展望風呂があり、その両方に絶景露天風呂を併設。朝焼け、秋空、月や星々と共に…贅沢で他にない湯あみ体験をどうぞ。



織田信長公が貴人をもてなした料理を現代版にアレンジした「信長饗応膳」も提供中。5人以上で要予約。



〒岐阜市湊町397-2
TEL 058-265-5211



美景の誉れを名に刻む
十八楼 レトロモダンな温泉宿

1860年(万延元年)創業、江戸時代より続く由緒正しい老舗の宿。十八楼の名は松尾芭蕉が岐阜に滞在にした際の「十八楼の記」にちなんでおり、その名にふさわしい清流の景色と涼風、きめ細やかなもてなしを堪能できる。異なる2つの大浴場や明治時代の蔵を利用した「蔵の湯」等、湯船や空間の違いを楽しむのも一興。



〒岐阜市湊町10
TEL 058-265-1551

えられ、国内外の文化人にも愛され続けてきた。特に俳人・松尾芭蕉の詠んだ「おもしろうてやがて悲しき鵜舟かな」は、静寂と闇を染め上げる魅惑的な美と、歓楽後のもの悲しい情感を捉えた名句である。

伝統美と遊宴文化が共存した鵜飼観覧は、自然との融合に価値を見出す日本独特の美意識の上に成り立つ。金華山と長良川の織り成す景色、鵜匠家に伝わる鵜飼の技と鮎鮓の伝統技術：信長公が愛した耽美と野趣に富む文化は、そのもてなしの心と共に、現在まで受け継がれている。今も変わらず岐阜は、信長公自慢の「おもてなし都市」であり続けるのだ。

岐阜のおもてなしに欠かせないのが、長良川で行われる鵜飼。信長公自身、鵜飼を厚く保護しており、武田信玄の使者・秋山伯耆守が訪れた折には鵜飼観覧に招待した。さらには獲れた鮎を自ら検分した上で、甲府に届けさせたと伝わる。鵜飼で獲れる長良川の鮎は、柿と並ぶ古代から美濃の特産品であった。

江戸時代になると名物の鮎鮓が、御膳街道を通過して將軍家に献上されるようになる。これには鵜飼を称賛した徳川家康・秀忠親子も深くかわかつており、家康公に至っては鮎鮓を10回おかわりしたという逸話も。かくして鵜飼は時代を通じて守り伝

鵜飼観覧と一体で育まれてきた 船上の遊宴文化 日本遺産



舟遊びのお供として芸舞妓を乗せた風雅な遊興は、今も体験ツアーを通じて堪能できる。鵜飼から生まれた小唄「風折烏帽子」に三味線の音色に合わせた艶やかな舞、川風を感じながら味わう地酒と料理——岐阜ならではの大人の遊びが今に息づいている。



TEL 058-269-3858(ぎふ長良川めぐるのツアーズ(NPO法人ORGAN))

川原町泉屋 鮎料理のパイオニアが贈る 唯一無二の美味を堪能

正統派の鮎料理から鮎ピザ、鮎ラーメン等のオリジナルメニューまで、現代人の味覚に合わせて鮎を提供する名店。伝統の味を大切にしながらも、固定観念にとらわれない食文化を追求する。岐阜の名物として愛されてきた鮎鮓を独自に進化させた「子持鮎熟れ寿し」も、ぜひ食べたい逸品。鵜飼シーズンはコース料理の予約のみ受付。



じっくり1年かけて作る卵のたっぷり詰まった「子持鮎熟れ寿し」。時間が生み出す複雑な味わいは、まさに代わりのきかない美味。

〒岐阜市元浜町20
TEL 11:30~13:30LO、17:00~19:00LO
水曜 ※冬季休業有
TEL 058-263-6788



撮影/小林 淳



「川の文化」で おもてなし

信長公や家康公も愛した 岐阜おもてなしのクライマックス

ぎふ長良川の鵜飼

日本遺産 国指定重要無形民俗文化財

1300年以上の歴史を持ち、金華山を背景に繰り広げられる伝統漁法「ぎふ長良川の鵜飼」は、古典絵巻にも例えられる幻想的な美しさ。信長公は鵜飼を接待の場として用いると共に、「鵜匠」の名称を与えて保護した。後にこの地を訪れた喜劇王チャップリンは、その感動を「そのまま一遍の詩だった」と述べている。

〒岐阜市湊町1-2(鵜飼観覧船事務所)
乗合船の出航は18:15、18:45、19:15
(5/11~10/15開催 ※年に1回鵜飼休業有)
TEL 058-262-0104



御膳街道のまちなみ

日本遺産 国文化的景観

当時の主要道路。江戸時代、鵜飼で獲れた鮎を飯と塩で発酵させて製造した鮎鮓を、この道を通って江戸まで運んだためこう呼ばれる。道沿いには現在も旧紙問屋の空棟屋等、かつての雰囲気をとどめる建物も残っている。

〒岐阜市金園町



鵜匠家(鵜飼の里)

日本遺産 国文化的景観

鵜匠家が並び、鵜の世話をしながら共に暮らすエリア。鵜の様子や積み上げられた篝火の松割り木等も見ることが出来る。生活の場なので見学する際はマナーを守ってプライバシーへのご配慮を。

〒岐阜市長良中鵜飼

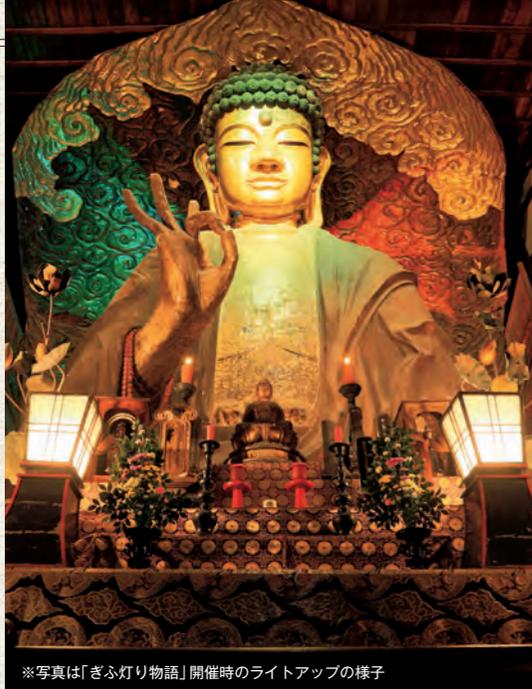


長良川うかいミュージアム

「ぎふ長良川の鵜飼」の価値を分かりやすく紹介・情報発信しており、オフシーズンでもその魅力を堪能できる。幽玄の世界にどっぷりいざなう絵巻物型スクリーンや豊富な体験型展示等、見どころ満載。

〒岐阜市長良51-2
TEL 9:00~19:00 ※10月16日~4月30日は~17:00。入館は閉館の30分前まで
TEL 10月16日~4月30日は火曜(祝日の場合は翌平日)、年末年始
TEL 058-210-1555





※写真は「ぎふ灯り物語」開催時のライトアップの様子

慈愛に満ちた微笑を称え、ややうつむき加減に鎮座する姿は、迫力と癒しどちらも兼ね備えた存在感。

ものづくりの技が結集したまちのランドマーク

岐阜大仏(正法寺)

日本遺産 県・市指定重要文化財 国文化的景観

天和3(1683)年創建と伝わる黄檗宗のお寺。代名詞でもある「岐阜大仏」は漆箔の大仏としては日本最大の大きさを誇る。像高約14m、材木や竹、和紙等、このまちのものづくり文化の粋が集結した大仏は、木材で骨格を組み、竹で下地を編んで粘土を塗ったもの。ここに経文を貼り、その上に漆と金箔が施されている。天保3(1832)年の開眼供養は信長公居城以来の盛儀であったと伝わる。



所 岐阜市大仏町8
時 9:00~17:00
休 無休
☎ 058-264-2760



風雨をしのぐため、大仏造立と並行して建てられた大仏殿。大仏と一体になった特殊な形態の建物は建築的にも価値が高い。

妙照寺

日本遺産 市指定重要文化財 国文化的景観

日蓮宗の寺院で、慶長5(1600)年、最後の岐阜城主・織田秀信の寄進により竹中半兵衛の旧屋敷跡である現在地に移転したと伝わる。貞享5(1688)年6月、5代目住職の際には俳人・松尾芭蕉が1カ月間滞在し、ここを拠点に近郊のまち歩きや鶺鴒見物に繰り出して多くの句を詠んだ。境内には到着の時に芭蕉がこの寺で詠んだ挨拶の句の句碑が建ち、もてなしへの感謝が表されている。また碑の後ろの老梅は、芭蕉の手植えと伝わる。

心づくしのもてなしに感謝 松尾芭蕉、岐阜観光の拠点



境内に建つ句碑「やどりせむ あかざの杖に なる日まで」。「庭のあかざの草が伸びて旅の杖に用いることができるようになるまで、ゆっくりと世話になりたい」の意。

所 岐阜市梶川町14
時 10:00~16:00
休 無休(行事により拝観不可日有)
☎ 058-264-7793



庫裡内にある芭蕉が滞在した12畳の座敷「芭蕉の間」。

信長公おもてなし抹茶(金粉入)+堂上蜂蜜柿



緑水庵川原町店

だんごにアイス、かき氷等菓子店のこだわりメニューをテイクアウト&喫茶で堪能できる。店内ではおもてなし好きの信長公にちなんだ金粉入りの抹茶をどうぞ。

所 岐阜市湊町48
時 11:00~19:00(18:00LO)
休 鶺鴒シーズンは月曜、火曜。オフシーズンは月~木曜
☎ 058-215-5476



長良川デパート

長良川流域で育まれた選りすぐりの品が揃う店。水運にもたらされる物資とものづくりを行う職人と——商品と共に「長良川に育まれた」物語と作り手の想いも伝える。

所 岐阜市湊町45
時 10:00~18:00
休 火曜、年末年始
☎ 058-269-3858



長良川てしごと町家 CASA

長良川流域に息づく「手仕事」を見て、触れて、体験して、買える場所。和傘をはじめ提灯や活版印刷等が一つ屋根の下に寄り合い、ヒトとモノを繋げる拠点となっている。

所 岐阜市湊町29
時 11:00~18:00
休 火曜、水曜
☎ 090-8335-9759



住井富士郎商店

対面販売だからこそ味わえる 伝統技の妙と尊さ

伝統の岐阜うちわを手づくりしているお店。対面販売しながら骨組みから仕上げまで全てを手作業で行っており、この地に根付くものづくりの技を間近に感じられる。見た目にも涼味満点の「水うちわ」は雁皮紙(がんびし)という薄い和紙に天然のニス塗り、水のような透明感を出したものだ。あおいでみると竹骨がよくしなり、心地よい自然の風を運んでくれる。



水うちわ(玉子形)

仰ぐ姿さえも涼やかに美しく見せてくれる、風雅な暮らしの道具。店頭でおしゃべりしながらお気に入りの1本を選びたいもの。



所 岐阜市湊町46
時 9:00~18:30
(鶺鴒オフシーズンは~18:00)
休 水曜(鶺鴒オフシーズンは日曜)
☎ 058-264-4318



信長公はフロイスとの別際、こう言ったという。「美濃へは何度でも訪れよ」そう、岐阜は信長公仕込みのおもてなしで旅人を楽しませ、常に新たな感動をくれる理想郷——だから訪れる度、面白い。

城下町で花ひらいたのは、水運がもたらす和紙や竹を用いたものづくり文化。団扇に提灯、和傘、竹を編んで造った岐阜大仏。岐阜城が役目を終えた後も、美しくクリエイティブな文化は訪れる者を魅了し続けた。

フロイスの言葉を借りればその賑わいは「バビロンの混雑」を思わせるほど。楽市楽座で経済と商業の自由化を図る一方、川湊の商人に舟木座の結成を認める等、柔軟で先進的な施策でまちをさらに豊かにした。この頃確立された「戦国城下町」としての骨格は、今の街路や活気にしっかりと継承されている。



川原町屋

日本遺産 国文化的景観

窓辺の景色でもてなす粋 岐阜の喫茶文化も楽しんで

かつては紙問屋だった町屋を、ギャラリーとカフェにリノベート。こちらの2階からは、まるで絵画のように切り取られた岐阜城復興天守の姿が。明治43(1910)年に先代の復興天守が建設されると、この界隈では天守が見える位置にこうして座敷を作り、自慢の眺望で客を歓待したという。甘味と共に目で楽しむおもてなしも堪能したい。

所 岐阜市玉井町28
時 11:00~16:00
(土日祝日は~17:30)
休 木曜、年末年始
☎ 058-266-5144



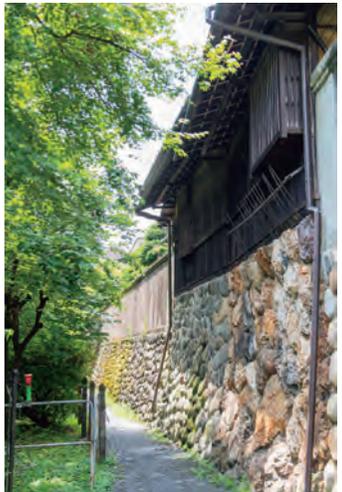
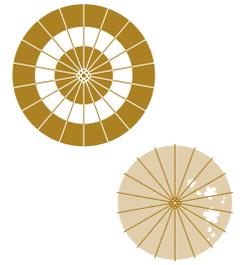
川原町屋カフェ

わらび餅に抹茶アイス、あんこ、栗、寒天がぎっしりの豪華版。



「城下町」で おもてなし

NOBUNAGA
KINGDOM
G I F U



蔵の並ぶ散歩道。往時は蔵の前に運搬用の水路があった。

古き良き趣はそのままに 岐阜の“最旬”が集う

川原町のまちなみ

日本遺産 国文化的景観

斎藤道三公の時代から長良川の水運を利用して栄えた湊町。材木問屋や紙屋が軒を連れたこの界隈では、自ずと竹や和紙を用いたものづくり文化が花開いた。格子戸の美しい町屋、高い石垣の上に建つ黒壁の蔵等、今も在りし日を偲ばせる。



座敷から望む金華山の眺望。

岐阜のまちが、連日活気づくのが秋。毎週イベントが目白押しこの季節でも、ひととき注目度が高いのが11月第1土曜、翌日曜に行われる「ぎふ信長まつり」。春の道三まつりと対をなすこの祭りは、絢爛豪華な信長公騎馬武者行列が見どころとなっている。また、10月末から開催される「菊人形・菊花展」も根強い人気。艶やかな菊の競演が、岐阜公園に彩りを添える。



岐阜公園の紅葉 撮影/小林 淳



菊人形・菊花展



ぎふ信長まつり

秋

金華山から望む日の出



澄んだ空気の中で光が瞬く冬は、「灯り」を楽しむ催しが主役。「ぎふ灯り物語」は、岐阜和傘や岐阜提灯等が彩る、まさに岐阜ならではのライトアップイベント。また、毎年冬至に行われる「こよみのよぶね」は数字を象った巨大行燈を長良川に浮かべ、1年に想いを馳せる風物詩となっている。一方、濃尾平野を照らす金華山から眺める朝焼けも見事。元日は早朝から岐阜城特別開館も行われる。

冬



こよみのよぶね



ぎふ灯り物語 撮影/小林 淳



夏



岐阜まつり・協賛道三まつり 撮影/小林 淳

岐阜に春の訪れを告げる風物詩「岐阜まつり」は4月第1土曜、翌日曜に行われる伊奈波神社の例大祭。今の祭りの原型は江戸時代に確立したとされる。1日目の宵宮(よみや)では、桜が満開の参道等で市の重要有形民俗文化財に指定される踊山車やカラクリ山車、神輿の練り込みを披露。大河ドラマ「国盗り物語」を機に、協賛の形で道三まつりも同時開催される。



ぎふ長良川花火大会



長良川夜市



長良川新能

夏は最も水辺の景色がきらめき、夜が輝く季節。「ぎふ長良川の鵜飼」期間中の土曜日、長良川プロムナードは夜市で賑わい、地元民と温泉街の泊まり客が行き交う。またぎふ長良川花火大会は、全国から人が押し寄せる最大のスペクタクルで、超ワイド幅のスターマインと金華山のコラボレーションは圧巻！一方河川敷にて薪を焚いて行う「薪能」では、幽玄の美を堪能できる。

春



長良川堤の桜並木

春夏秋冬、日がな一日
いつ何度訪れても岐阜は面白い

岐阜市の夜をもっと楽しむなら「タマミヤ」に行こう!

JR岐阜駅の北、名鉄岐阜駅の西地域にある玉宮町、羽根町、住田町等から成るエリアは、通称「タマミヤ」と呼ばれる岐阜屈指の繁華街。居酒屋を中心に400店舗以上の個性的なお店が並び、活気に満ちた独特の雰囲気も魅力。岐阜の郷土料理やご当地グルメを地酒と共に、心ゆくまで。



タマミヤ観光チケット

タマミヤの人気店でお得に楽しめるチケット。岐阜市内のホテル等で購入できます。



チケット販売場所や利用可能な店舗の最新情報はコチラ



山紫水明が育む岐阜の味

清流長良川の鮎



都市部にありながら清流が保たれる長良川とそこで育つ鮎は、2015年に認定された「世界農業遺産」の象徴。鮎は香魚とも呼ばれ、塩焼きや雑炊はもちろん、熟れ鮎等の伝統食からラーメン、ピザ、パスタといった多国籍な料理まで幅広く味わえる。

鮎菓子



清流を泳ぐ鮎の姿をかたどった可愛いフォルムのお菓子は、岐阜土産の大定番。ふっくら焼き上げた香ばしいカステラ生地の中にはもちりもちり求肥が隠れ、優しい甘さと食感がたまらない。形状も生地の中身も各店個性があるので、食べ比べもオススメ。



富有柿

信長公も愛した柿は、岐阜の誇る特産品。中でも「甘柿の王様」といわれる富有柿は、大玉で糖度が強いのが特徴。緻密につまった果肉は、かじると果汁が溢れ、とろけるような甘さを楽しめる。ジャムやカレー等、アレンジ商品もぜひお試しを。

お土産

「信長公のおもてなし」をテーマとした土産品を販売して日本遺産をPR。お菓子や鮎商品、調味料etc...、お茶でおもてなしをする信長公を描いた、岐阜市土産品協会の統一デザインが目印。





日本遺産

日本遺産

「信長公のおもてなし」 まちあるき MAP



信長公の岐阜城入城後に、清須より移転。京都の公家・山科言繼も参拝に訪れた。

信長公により信濃の善光寺如来が一時迎えられた。山科言繼も2度訪れている。

信長公在城時、薬市場の入り口に市を守る神として祀えられたとされる様。

信長公の寄進とされる梵鐘や、前身の浄泉坊門前に立てた「薬市場・定」の制札が残る。

庭園から望む金華山と復興天守が見事。建物は現在、日本料理店として利用されている。

稲葉山の築城に伴い道三公が現在地に遷座。4月の岐阜まつりは春の風物詩に。

全国唯一の市営の造船所。長良川の鵜飼観覧を支える技術が継承されている。

城下町エリア お食事処マップ

岐阜城・城下町のエリアのイトイン可能店舗を網羅。地元の美味食材や名物料理、岐阜ならではの独特な食文化まで、幅広く楽しめます。



こちらからGoogleマップ版をご覧いただけます

提供：NPO法人ORGAN / 岐阜長良川温泉旅館協同組合 / ぎふ歴史遺産活用推進協議会

「信長公 天下布武のおもてなし」



LINEスタンプ

岐阜城下の宴に、各地から戦国武将が大集結!? もてなしもてなされの宴会で、敵も味方も大盛り上がり! おもてなしスタンプの決定版です。

提供：ぶらざ編集部